
慈 恵



平成27年 冬季号

No.49

宗教法人 慈 恵 院

付属 多磨犬猫霊園

長安一片の月 萬戸衣を擣つの聲



子夜吳歌 李白

南禅寒松叟

「禅画報」より

良	何	総	秋	万	長
人	日	是	風	戸	安
罷	平	玉	吹	擣	一
遠	胡	関	不	衣	片
征	虜	情	尽	声	月
良	い	す	秋	万	長
人	ず	べ	風	戸	安
遠	れ	て	吹	衣	一
征	の	是	い	を	片
を	日	玉	て	擣	の
罷	か	関	尽	つ	月
め	胡	情	き	の	
ん	虜	の	ず	声	
	を	情			
	平				
	ら				
	げ				
	て				

小僧の古梁、伊達侯をやりこめる

古梁和尚は幼いころ品川の東禅寺で小僧をしていた。十二歳のある日である。仙台の伊達侯が、先侯の法要のため東禅寺に参った。書院で休息されている伊達侯に、小僧の古梁和尚が茶を捧げ持ってきた。その茶わんをとろうとした伊達侯は、あやまってひつくりかえし、自分の袴をよごしてしまった。ところが自分勝手にも伊達侯は、大いに憤慨して、刀の柄を握った。古梁はひれ伏して謝ったが、侯は聞き入れようとしない。すると、腹をくくった古梁は侯の前に進み出ると、

「いざ斬りたまえ」

と頭をさしのべ、つゆほども騒ぐようすもなかった。

驚いたのはむしろ伊達侯である。古梁のこの度胸にすっかり感心してしまった。

「この小僧は並の小僧ではないぞ。将来は大知識となり、必ず天下に名を上げる器量じゃ」

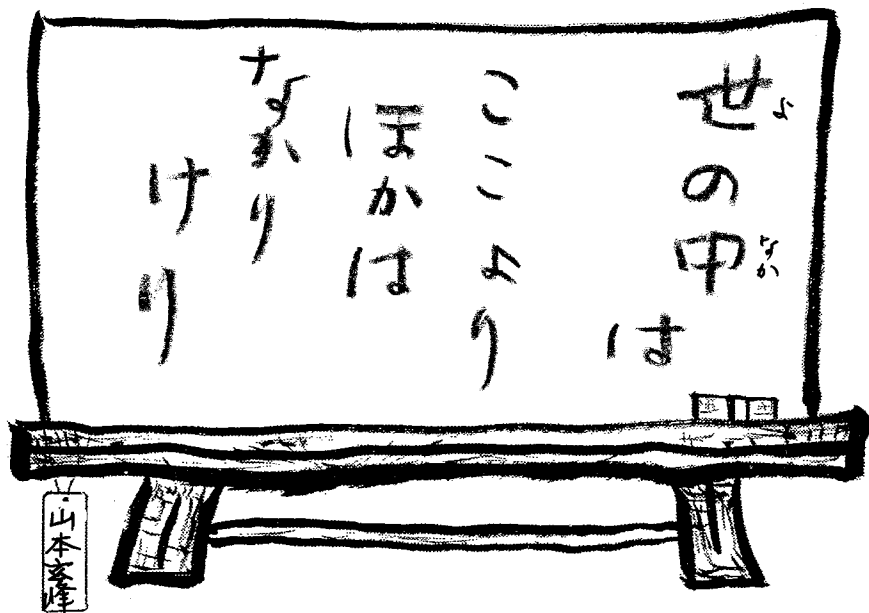
ついに古梁を仙台の藩校に入門させ、その学問の援助をおしまなかった。

「禅門逸話集成」より

古梁紹岷 (一七五三〜一八三九)

臨済宗。相模国高座の人。江戸東禅寺の万庵について得度し、その法を嗣ぐ。仙台の瑞鳳、覚範、瑞巖の三寺に住した。

掲示板





ベルへ

国立市 桑山 千津見

あなたが旅立ってから二年が過ぎました。

今でも階段の上で尻尾を振りながら覗き込んでいた様子、ソファに座っていると飛び乗って膝に頭を乗せ甘えていた様子が目に浮かびます。

買い物に行く道、図書館に行く道、あなたと歩いたことを思い出します。

あなたが使っていたタオルは洗ったけれど今もあなたの匂いが残っています。

時々急に会いたくなり、何回もお参りに行きました。納骨堂に置かれたあなた

を抱いてみたけれど、とても冷たかったです。その冷たさが、悲しかったです。

この頃辛そうだったあなたの姿ではなく、楽しそうに歩いていたあなたを思い出します。

リビングや私の机のまわりに、あなたの写真が増えてきました。

温かいあなたを抱くことはできないけれど一緒に過ごした十六年間は消えないんだとわかりました。

これからはたくさんのお友達が眠っている合同供養塔にお参りすることにしました。花に囲まれた暖かい日差しの中があなたに似合う気がします。

天国のララへ

小平市 池畑 芳子

ララちゃん天国へ着きまし

たか。

平成25年10月25日、朝早く天国へ旅立ったララは、我が家のアイドルでした。明るく

愛くるしく頭が良く、いつも家族全員の事を気にかけて相談相手になってくれましたね。

生後50日から来たラブラドルトリバーの雌犬は、「ララ」と名付けられ、我が家の愛犬となりました。

太陽のようにいつも輝き続けてくれた15歳1ヶ月の日々を有難う。妹分としてお兄ちゃん二人には特に可愛がられましたね。

今年の春から寝込んで立ってなくなりオムツの生活が毎日続いていましたが、食いしん坊のララの食欲は旺盛でした。

6月にララの4畳の小屋を作ってから、低反発マットにのびのび気持ち良さそうに眠っているララを見て、お母さんは毎日安堵していました。お客様がララの小屋を見て「ク

ーラー付で冷暖房完備、網戸付で私が住めるわね。」と冗談を言っていました。

ララの大きな目、顔立ち、体つき、茶色のしっぽをいつも振って、チャイムが鳴ると真っ先に出迎えてくれ、お客様を喜ばせてくれましたね。

夜になると二階のベッドにいつも寝ていて、そのイビキに何度も驚かされ苦笑したことが・・・。

ララはとても食いしん坊で、お散歩にはいつも茹でたキャベツを途中で食べていましたね。ララと一緒に散歩したところは、いつまでも心の奥に残っていていつも思い出しています。

動けなくなり寝たきりになってからのララは、32kgの体重が、14・4kgまで痩せてしまいました。オムツもLLからLそしてMのサイズになり、みるみる痩せていくのが分かりました。

10月18日(金)に食事が取れなくなり、亡くなるまでの一週間毎日点滴をしてもらいに動物病院に通いました。

お母さんは水分の取れないララは可哀想だと思い獣医さんに点滴をして頂いたけど、本当は辛かったね。痛い思いをさせてごめんね。

ペットタクシーの方には、春から病院通いにいつも付き添って頂いて本当に助かりました。ララはいろいろな方に愛されたね。

今ララのアルバム5冊を祭壇に置いてあります。赤ちゃんのララをお父さんが抱いて話しかけていますよ。ララ、私達の事は心配しないで良いよ。

ララがいなくなってもメールアドレスは永久欠番だからね。

これからも天国のララといっぱいお話ししましょうね。有難うララちゃん、安らかに

に天国で幸せに。

百ヶ日忌の挨拶状

東久留米市 朝倉 貴

顧みますと、平成〇年十二月二十四日夕刻、獣医師磯部先生から仔犬を預かってきて新島から仔犬を預かってきていたのだが、というお話を受けたのが始まりでした。

お伺いすると、玄関の上がり框にダンボール箱に入った仔犬が三匹。その中に小さく丸まって不安そうに見上げていたのが、朝倉家の養女となつた「ベル」でした。

ベルと命名したのは戴いた日が丁度クリスマス・イブで、ジングルベルに因んだものです。以来十五年、ベルは私たちの傍らにいつも一緒でした。

息子の亮一は、当時、ニューヨークのオーケランドにおりましたが、帰国して初

めてベルを抱いたときから彼の妹となりました。

優しく賢い子で、自動車も大好きで、附近の買物から遠方への旅行まで、いつも助手席に姿勢よく座って、運転の下手な主人を気遣ってくれ、まさに家族そのものでした。

長い年月、避妊手術のあとには病気一つせず、ただ持病といえは胸焼け程度で、主治医としての磯部先生には、少しは病気をしてくれと冗談をいわれるほどでした。

平成〇年十二月十五日夜、この日は久しぶりに磯部先生と痛飲いたしました。普段はおとなしく部屋の隅に横になつて居るベルが、この日に限つて先生の膝に絡みつき、何かを訴えるように吠えるのをやめません。話もできないくらいのはしゃぎようで……。

先生がお帰りになつて数時間後でした、彼女の容態が急変したのは。死因は、磯部

先生が学会に発表された「肋間動脈破裂」という突然死でした。

あれほど異常なはしゃぎかたで、彼女は何を訴えていたのか、気遣つてやれなかつたのが今も悔やまれてなりません。それにしても、我が家へやってきたのが十五年前の十二月。そして、わたし達に少しの面倒もかけずに逝ってしまったのも十二月、クリスマスまであとわずかでした。

平成〇年三月二十五日、百ヶ日忌を迎えました。本日は、供養の集いにお差し繰りいただき、有り難うございました。

合掌

